



嚥下機能を鍛えよう！

蒲郡には魚やみかんをはじめ、おいしいものがたくさんあります。それらを食べるときに必ず必要なことは、なにか分かりますか。それは、嚥下（飲み込むこと）です。

高齢者の死因はがん・心疾患に次いで第3位は肺炎です。肺炎で亡くなる方の約7割以上が食事などをきっかけとした誤嚥性肺炎といわれています。誤嚥性肺炎とは、日頃皆さんが食べている食事や飲み物・唾液が誤って肺に入り、炎症を起こし発熱など起こす病気で、対応が遅れると死に至ることもあります。

当院では、誤嚥性肺炎の対応に加えて、飲み込み機能改善のためのリハビリを行っています。リハビリの前に食べ物・飲み物を用いた嚥下造影検査・嚥下内視鏡検査によってどの部分に問題があるかを精査し、医師、看護師、管

理栄養士、言語聴覚士などの職種で話し合っており、リハビリ内容を決定しています。治療過程から患者さんそれぞれの状態に応じてどのような食事の形態であれば良いのか、どのような姿勢であれば食べられるのかを考え、在宅や施設、他病院へ転院しても安全に過ごしていただけるように最善をつくします。

今年度から干渉電流型低周波治療器（ジェントルスティム）も導入し、嚥下反射が起きにくい方や咽頭貯留（食べ物などが咽頭に残ってしまうこと）などによって嚥下が困難な方に対するリハビリの幅も広がっています。

嚥下機能を向上させ、おいしいものを食べることで、豊かな人生を送りましょう。



市民病院
かわら版

診療科が充実しました！

市民病院では、4月から医師が7人増員となり、48人体制となりました。呼吸器科・内科（糖尿）・泌尿器科に新たに医師が赴任し、消化器科・皮膚科・眼科は増員となり、今まで以上に多くの手術、検査を実施できるようになりました。

今後も二次医療として救急医療や入院を中心とした質の高い医療を提供します。

皆様のご来院を心よりお待ちしております。



医療機関の使い分け

かかりつけ医を持ちましょう

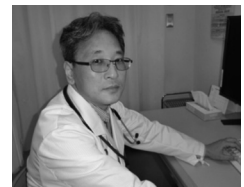


先生に聞いてみた！



インタビューバトン

第15回 呼吸器科 医師 小栗 鉄也



Q 先生の出身は？ A 名古屋市です。

Q 先生が呼吸器科の医師を志した理由は？

A 内科医を志し、研修医時代のローテーションで一番面倒をみてくれた先輩の医師が呼吸器内科医でした。

Q 肺がんの症状とはどんなものですか？

A 呼吸器症状として咳、痰、血痰、呼吸困難など。肺がんは転移をおこす場合が比較的多く、腰痛（背部痛）などの骨転移症状やふらつきなどの脳転移症状から見つかることがあります。

Q 肺がんの原因は？

A 一番はタバコですが、近年非喫煙の女性の肺がんが増加しています。

Q 肺がんを早期発見するためにはどうしたらよいですか？

A 定期的に肺がん健診を受けてください。

Q 肺がん予防で心掛けることは？

A しいてあげれば禁煙ですね。

Q 患者さんや地域の方々にとこと

A 呼吸器科では、肺がんだけでなく呼吸器疾患一般に対応します。肺がんは治療が進歩しており、高齢者の方などには考慮し、体に負担の少ない治療も行っています。

次回は小児科の先生です